



表紙 仏花
石川 真樹 [茨城1組 福法寺]

花材 ハラン、カサブランカ、トルコキキョウ、アレカヤシ、カーネーション、小菊



Shinran
850th
800th

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2022年5月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員
総編集長：本田 彰一（東京1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4） 朝倉 俊隆（東京5） 五島 大地（東京8） 小田 俊彦（茨城1） 大山 信敬（茨城2） 佐々木 萌（長野5）
チーフ：田上 翼（茨城1）
坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南） 和田 祐樹（三浦）
チーフ：田宮 真人（東京8）
土岐 孝広（東京1） 内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 相馬 法道（茨城1） 鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net
ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

- 03 オンラインお待ち受け大会 平松 正信

特集

- 05 終活を縁として 小林 尚樹

- 11 法語ポスター

教区教化通信 同朋の会推進部門

- 13 真宗入門講座 伊藤 大信

教区教化通信 研修部門

- 14 聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

教区教化通信 広報出版部門

- 16 初参り式リーフレット 伊東 良宣

教区教化通信 「同和」協議会

- 17 第3回部落問題基礎講座 大滝 信明

はい！こちら真宗会館です

- 20 駐在日記 渡邊 誉

はい！こちら真宗会館です

- 21 所員のつぶやき 大橋 百花

- 23 敬弔・涌 佐々木 誠信

—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ)—

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区500カ寺からつながる

オンラインお待ち受け大会

講師 池田 勇諦氏 (三重県 西恩寺)
13時30分開会 15時30分閉会



教区慶讃事業企画運営委員会

お待ち受け・法要部会委員

平松 正信 (東京4組 専行寺)

親鸞聖人の御誕生を喜ぶということの根底には、何はともあれ、わが身の誕生が受け

取れるか受け取れないかということが、問われているのです。けれどそれは、自我で生きる今日の私からは出てこないのです。(中略)南無阿弥陀仏を聞くご縁にふれて、初めて「人と生まれたことの意味をたずねる」ということが、与えられてくるのですね。

(真宗本廟お待ち受け大会

池田勇諦師記念法話

「慶喜奉讃に起つ」より)

春彼岸から4月8日の花まつりまで、毎年自坊では花御堂(釈尊誕生仏)にお参りいた

だいている。コロナ下にあつて、墓参のみで本堂にお参りにあがられる方が減ってしまったので、今年はお釈迦様に寺の玄関先までお出ましいただいた。

「甘茶つておしゃかさまの頭の上から、ジャーツてかけちやつていいんですか?」「初めて飲んだけど、甘くて美味しい!」「お寺の幼稚園に通っていたので花まつりは懐かしいです」。それぞれにお釈迦様と対面してくださっている。可愛らしい誕生仏のお姿、花畑のような彩り、灌仏(かんぶつ)という独特の作法、そこに皆さんの笑顔も荘厳される。誕生仏を礼拝することは、人間としての生を成就せんとする、自身の深い願いに手を合わせている姿



なのであろう。

「誕」という文字には「うまれる」の他に、「いつわる、あざむく、ほしいまま」という意味があるそう。誕生とは本当におめでたいことなのかと問いかけられる気がする。仏教では「生苦」を、人間の本質的な苦である「行苦」のひとつと教える。しかし「生」のすぐ裏にある「死」を見ようとしない私たちには、それが苦であることも理解しがたい。そもそも「生まれてくる」とはいうが、国も時代も親も性別も環境も何一つ自分では選べない。縁によって生まれてくる。ウクライナ情勢を憂いている私も、ロシアに生まれていたら、きつと今ごろ戦車に乗っているに違いない。「親ガチャ」という言葉が発せられる人間の根っこにこの問題が横たわっている。評論家・芹沢俊介さんは、それを「強制的贈与」と「イノセンス（根源的受動性）」と表現された。何一つ選んでいない私には責任がないし、受け止められないと…。実はこれは子どもだけの問題ではなく、「わが身を受け取る」という仏道の課題なのであろう。

「天上天下唯我独尊」—あなたはあなたであることにおいて尊い—

裸のままのいのちが無条件に尊い。その事

実に目覚めるためにこそ人間に生まれたということを、お釈迦様は仏教として明らかにされた。南無阿弥陀仏とはその感動を私に呼び覚ます言葉の仏さまである。〈教区お待ち受け大会〉が「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」をテーマに勤められる。このことを改めてお尋ねしていきたい。

寺院へのお知らせ

◇ご寺院でのオンラインサテライト会場の設営をお願いします。「教区オンラインサポート」をぜひご利用ください。

◇お待ち受け大会のポスターとチラシの追加希望は東京教務所までどうぞ！



東京教区 オンラインサポートのお知らせ（寺院・教会）

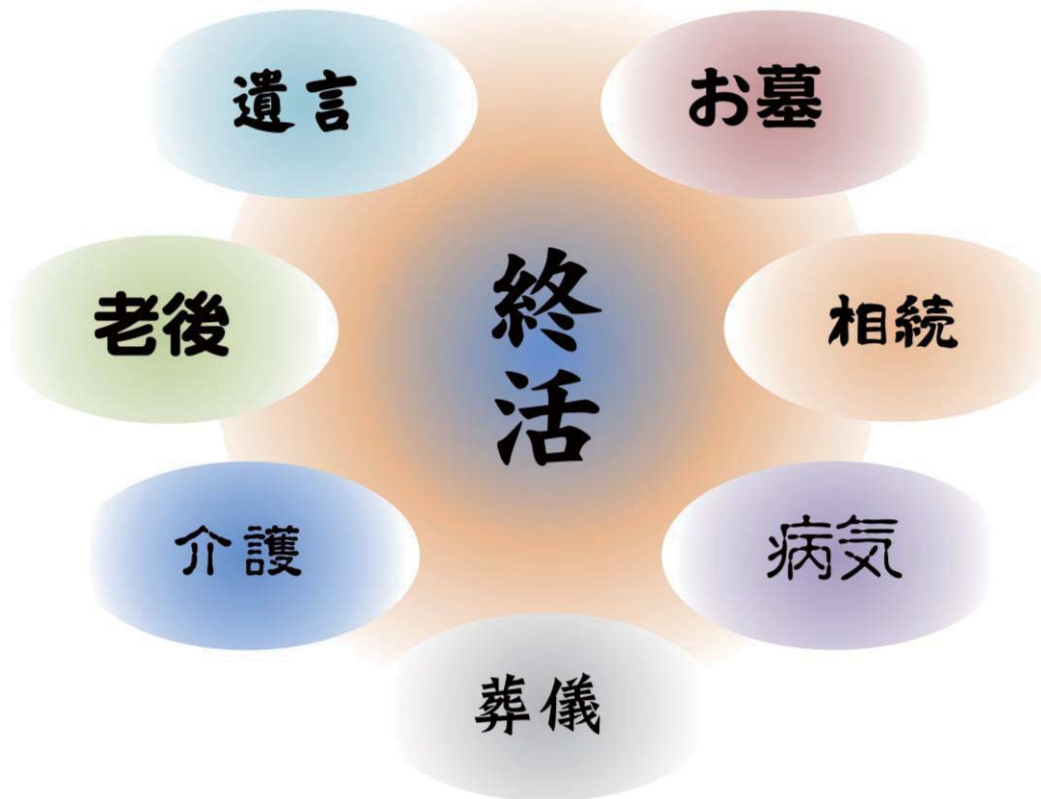
東京教区では慶讃法要お待ち受け大会（6/13）のオンライン配信が予定されています。全国的にもZoomやYouTubeといったオンラインを活用した法話配信や学習会がすでに活発に行われています。この機会に、教区のサポートをご利用いただき、オンラインを自らとご門徒の聞法の手段としてお役立てください。

サポートについて

受けたいサポート内容を、各組同朋の会教導か東京教務所（担当：佐々木・渡邊楽）にお問合わせください。ご連絡の上、貴寺院に出向いてサポートいたします。

東京教務所 Tel:03-5393-0810 Mail:tokyo@higashihonganji.or.jp

終活を縁として



「終活」とは「人生の終わりのための活動」を略した言葉ですが、聞いたことのある方も多いのではないのでしょうか。

私は終活に対して、遺^{のこ}していく家族や子どもにも迷惑をかけないために身辺整理などを生前に行う事であると認識をしていました。言葉を聞くと「周りの人の事を考えた賢い行い」のように聞こえますが、私には違和感がありました。

実際に私の周りであったことですが、ある方が自分の子が未婚で後を継ぐ人がいないから自分の代でお内仏やお墓、お寺との付き合いなどを終わりにして、整理させて欲しいという相談にきました。その時は、切羽詰まった相手を前に何も言うことができませんでしたが、モヤモヤとするものがありました。

このご門徒さんは家族の事を思って身辺整理を始めたのだと思いますが、私には「ご子息の「因」を奪うような行為に思えて仕方ありませんでした。ご子息が手を合わせる場所を奪うことになるのではないかと。ご子息とこの先の事をちゃんと相談されたのだろうか。自分ひとりの思いだけではないのか。純粹に家族のことを思っている事なのか。自分の都合が混ざってはいないのだろうか。など、色々な疑念が浮かんできてしまいました。ですので、終活というものについていい印象がありませんでした。

小林 尚樹住職（東京6組 光明寺）がお寺で終活セミナーを開催しているという話を聞いたときは驚きました。そこで今回の特集では、小林さんがお寺で終活を行うことの意味をお聞かせいただきました。終活を通して、自らの問題や課題を考える機縁となっていただけだと思います。



東京6組 光明寺
住職 小林 尚樹 氏

終活とはどのような活動かお聞かせください

「終活」の定義は有るような無いようなものなので、それぞれが思うところでどう受け止めていくかでいいと思います。ですが一般的に終活とは人生の終わりに向けての準備と受けとられています。また、様々な職種によって終活セミナーが行われていますが、多くは主催者側の目的に沿った終活になっていると思います。

葬儀社が主催する終活であれば、葬儀の相談はお任せくださいとなりますし、司法書士や行政書士が遺産相続をテーマにすれば、遺言もしくは死後事務委任契約といわれるような事務的なこととなります。保険会社が主催するセミナーであれば、保険を活用して人生を楽しんでいけるようなマネープランを提案するというような終活になると思います。それぞれがどういうことを呼び掛けてセミナー

をやるかで変わってくると思います。

現在では終活カウンセラー協会という団体も設立されていて、終活セミナーや終活カウンセラー検定などを行い、終活の普及を図っています。その協会のホームページや出版物を見てみると、終わり・エンディングを意識することによって、今の人生をよりよく生きるということが書かれています。ただ終わりに向けての準備をするということだけでなく、今をよりよく生きるために終わりのことを準備しましょうという考え方が以前よりも増えてきていると感じます。

小林さんのお寺では「終活」に関してどのようなことを行っているのでしょうか？

3カ月ごとに発行している寺報で終活セミナーの案内を出しているので、年に4回お寺の本堂で終活セミナーを行っています。今までで合計12回行いました。

終活セミナーは二部構成に分けていて、2時間のうち、最初の30分は私から、「仏教の終活」というお話をし、あとの1時間で外部講師に話をしてもらいます。残りの30分が質疑応答です。現在はお寺に直接来てもらう

だけでなく、オンラインでもセミナーに参加できるようにしています。お寺とオンライン上の人達がやり取りできるようにしています。最初の「仏教の終活」では主に四門出遊の話をしています。お釈迦さまは老病死に出会ったことをきっかけに出家をし、生死を超越する道を求めて行かれました。この話と照らし合わせて、終活も老病死を問題としていくことを話します。また親鸞聖人は比叡山を下りられ、法然上人と出会い、生死出づべき道を聞かれました。これらの出来事を通して死にゆくいのちをどう生きて行くのかという話や、依りどころに関する話などを前半から外部講師にバトンタッチします。

◎四門出遊とは…

お釈迦さまが王子の頃に、お城の東門を出た所で老人を見かけ、南門を出た所で病人を見かけ、西門を出た所で死者を見かけ、この事をきっかけにお釈迦さまは逃げることのできない老病死という苦悩に気付かされました。そして、北門を出た所で出家者を見かけたことにより、苦しみを超越する道を求めて出家を志しました。

小林さんがお寺で終活セミナーを始められたきっかけは何ですか？

私は東京教務所での教区駐在教導など、本山宗務役員を経て、父の死を機に自坊に帰ってきました。これからどういうお寺にしているかと妻と話し合いをして、お寺を地域コミュニティの場所にしていきたいという思いがでてきました。地域コミュニティの場所としてのお寺とはどういう場所かと考えたときに、様々なライフステージに関わるとい



終活セミナーの様子



うことが大事だと思いました。子どもが集まれる場所であったり、学生や若い方、それから高齢者になっても、それぞれの人生の場面でお寺が日常的な場所であって欲しいと思っただけです。そこから、地域の憩いの場となるように寺子屋やカフェなどの様々な活動を始めていきました。その活動の中の一つとして終活のセミナーを始めました。

私がセミナーを始めた頃には終活は「終わりの準備」というイメージが強く、遺される者に迷惑をかけたくないなど、自分一人の思いの中で人生を終えていくような終活が多いように思いました。ですが、自分の人生を終えていくのだけでも、死ということはとても大きなことで受け止めがたく、悲しく、辛く、寂しいです。そのことを一人で受け止めていくというよりも、コミュニケーションをとる中で、誰かと話をしながら語り合えるような場所を作りたいなと思って終活を始めました。例えば夫婦で相談をするとか、子どもに話をするとか、仲のいいお友達と話をするとか。いずれ死にゆくいのちだけでも、安心して生きて往くということをどこかで語れる場を作りたいと考えたのです。

終活セミナー参加者の感想や反応はいかがでしたか？

毎回、参加者にはアンケートをお願いしているのですが、参加者のほとんどがお寺主催の終活セミナーは初めてだと回答されます。また「お寺こそ終活をすべきだ」といったご意見もありました。回答が返ってくるものはほとんど好印象な回答が多いです。

初めてお寺の終活セミナーに参加された人の中には、次の回にも続けて参加してくれた方もいました。オンラインでの参加者が、次からは本堂でセミナーを受けに来てくれたり、セミナーに参加した人がお寺のカフェに來たり「写教の会（正信偈の書写をする会）に來てくれる人もいました。私に会ってみたいと、いつて實際に來て会った人もいましたし、仏事を依頼されたこともありました。

お寺で終活セミナーを開催してみても何か感じましたか？

お寺には場の力があります。ご本尊を中心にした場所がお寺です。終活をお寺でするということは本堂に入った段階で他の終活セミ

ナーとは意味合いが違ふと思います。ご本尊に向き合い自分の人生を考えるわけです。

全然お寺に関わりのない、真宗のご門徒でもない人が終活をテーマにお寺へ訪ねてきて、阿弥陀様の前に座って仏教の話聞いてるわけです。それだけで十分ではないでしょうか。ご本尊の前に座っていた2時間の経験というのが大事だと思っています。ご本尊があるということに全幅の信頼をおいてお寺で終活を行なっています。

最初はお寺で終活をするということに違和感がありました。ご本尊の前に座って仏教の話聞く場が開かれるのはいいですね。

お寺で終活することに違和感を覚える人も多いかと思えます。終活を勧めることによって、遺言で自分の葬儀を簡単に済ませようとする人が増えて、結果的に終活は仏事の簡略化に繋がってしまうという意見もあります。終活は面倒なことを後の者たちに遺さないようにと、一人で後始末をつけていくと見られがちですが、私は「そうならないため」に寺で終活をしています。

私は終活という言葉コミュニケーション

をとるきっかけとしてもつと発信していけばいいと思っています。遺される子どもや家族に迷惑をかけたくないと思っている人がお寺に相談に来てくれたなら色々な話ができます。そうすれば「あなたが亡くなったら、ご遺族は何かしらのメッセージを受け取るものですよ」と言えますよね。「迷惑かけてもいいじゃないですか。迷惑をかけてかけられて、家族を巻き込んで、みんな互いにそうして生きてきたんだから」という話ができます。それが他の終活セミナーにいつてしまったら話もできないわけです。お寺が呼びかけて相談に来てくれたら、お墓の事も葬儀についても、相談の問題についてもお寺なりの提案ができると思います。今、私が言ったようなことだけでなく、お寺さんなりの話がその方たちとできるじゃないですか。そういうコミュニケーションとして終活という言葉が発信すれば、ご門徒さんとの関係作りを見直すきっかけにもなると思います。そのお寺さんなりの終活という呼びかけができれば、迷っている人たちに話をするきっかけになると思います。相談に来てくれたなら「一つひとつを丁寧にやっていきましょう」と言えるわけです。だから、私は終活という言葉にアレルギーを持た

前に、もつと終活という言葉が発信して、人々に呼びかけて、お寺で話をしようと言ってみたらいいのではないかと思います。

お寺で12回終活セミナーを行われてきましたが、印象に残っている回はありますか？

星野哲あとしさんという方に来ていただいた回が印象的でした。星野さんには2回来ていただきました。星野さんは元朝日新聞の記者で今は立教大学で講義をされていて、終活に関する取材や研究、講演などをされています。終活に関する書籍も何冊か書かれていて、その中のある本を読んですごく元気が出ました。お寺の終活にお呼びしたいと思っていたら、あるイベントで偶然出会いました。終活セミナーに来ていただくことになりました。

最初のセミナーでは『集活』のススメというテーマでお話をいただきました。「終活は集活だ」とのことですが、世間一般での終活は終わりに向けた準備ということで、エンディングノート（万が一のときに備えて、自分の情報や想い、希望を家族や友人へ書き留めておくノート）を書くことを勧めます。しかし、一人でエンディングノートを書き遺して

過去の終活セミナーの開催テーマ
★マークが星野哲さんの回

第1回	「安心して生きるための、税金・保険、そして相続について」 相続を争族にしないために
第2回	「安心して生きるための、認知症の基礎知識とサポート体制について」 「安心して生きるための、保険・年金、そして相続について」
第3回	第1部は、住職による「エンディングノートの書き方」 第2部は、「遺言と相続」
第4回	「安心して生きるための、遺品・生前整理について」
第5回	☆「『集活』のススメ ～人と集い、語り、交流し、縁を紡ぐ～」
第6回	☆「物語を紡ぎ、伝え、受けとる～遺贈寄付というつながり～」
第7回	「成年後見制度について～入門編～」
第8回	「家族信託について～入門編～」
第9回	「デジタル終活入門」
第10回	「安心して【老い】のいのちを生きるために ～高齢者住宅の選び方とポイント～」
第11回	「一シニア世代のためのー いきいきライフデザインセミナー」
第12回	「在宅医療の現状から『自宅で看取る』という選択について考える」 -在宅緩和ケアや訪問看護の現状-

いくのではなく、こういった事はみんなで集まって、みんなで相談し合いながらやりましょう。終活はコミュニティだと星野さんはおっしゃっていました。

2回目は「遺贈寄付」ということについて話していただきました。遺贈寄付とは、例えば遺言書に「私が死んだら国境なき医師団に100万円寄付してほしい」と書く、その

遺言書に基づいて、そのお金は相続されずに国境なき医師団に寄付されるという制度です。遺贈寄付という行為は、亡くなっていく方の価値観や、生きていく中で大切にしていたことなど、自分の人生の物語を家族に伝えるきっかけになると思います。

それ以前のセミナーのテーマは、制度やテクニックや、基礎知識などが多かったのですが、星野さんをお呼びした回は、生き方や願いとといった宗教的なニュアンスを感じましたので、今を生きるということを考えるきっかけになった回でした。

お寺で終活などの活動をしていくことに込められた願いや思いをお聞かせください。

地域コミュニティとしてお寺が地域の方々の日常の場所とされるように意識はしています。ですので、お寺では終活セミナーを開くだけでなく、寺子屋や地域の憩いの場としてコワーキングスペース・カフェを設けたり、ヨガ教室を開いたり、子どもたちのプログラミング教室、写教の会などの会場にもなっています。お寺に来る方がご門徒さんかどうかは関係ありません。



左上：プログラミング教室の様子
左下：ヨガ教室の様子
右上：カフェの様子

一方で仏の教えを依りどころに生きることが願う人がいる、ということをお忘れなようにもしています。お寺が単に地域コミュニティという場所だけではなく、葬儀をする、仏事のご縁が出来る、仏の教えを聞き真宗門徒になるなど、「どうぞお使いください」と場所として解放しているだけではなく、様々な

きつかけでお寺に来てくれた人々の中で、ごくわずかな確率でもお寺に通うようになったり、仏事を勤めたり、やはり真宗寺院として念仏に生きる人が生まれていくようにという願いを持ち続けているようにしています。

念仏者が誕生する縁となる可能性が終活にあるとは考えもしなかったです。新たな視点をいただき、ありがとうございます！

編集後記

私は、「終活」と聞くと「自分が亡くなった後のことを、生きている今どうしていくかを自分で決めて実行していくこと」、「亡くなつてからの事」というイメージを持っている。お墓や家、葬儀、お内仏、土地などの相続や整理、家族に迷惑や負担をかけたくないという想いから始める方が多いのではないかと思う。

話の中に、「終活」は「集活」だ」とある。

この発想は、私にはなかった。いつか命を終えていく身である私たちが、なるべく触れたくない死というを通して、その命をいかに悔いなく生ききるか。「集活」の場が、お寺であれば寺方も参加しお話を聞いたり、話したり、一緒に悩みに向かうことができる。そうした場を作るにあたり、お寺で何ができるのか。これをまずは伝えていかなければならないと強く感じた。一般的にお寺は葬儀や法事だけを勤める場所というイメージが強くあるが、実際には初参りや、仏前結婚式などを勤められる場所である。産まれてから命終えていくまでの数々の節目をお寺で勤めていくことができることを実際に知っている方はどのくらいおられるだろうか。

今回お話を聞き、終活がただ終わりを迎えるためだけにあるのではなく、いつか命を終えていく私たちが、今をどう生きていくかを見つめていくためにあるのだと、終活に対する見方が変わった。また、それを実行していくためには、お寺で何ができるのかということを広く知ってもらえるように、意識しながら伝えていくことが必要であることを再認識することができた。

次回の光明寺 終活セミナー

テーマ 「今からできる在宅介護の備え」
 講師 上月 伸一さん（訪問介護事業者）
 日時 2022年5月21日（土）
 14時 開会 16時ごろ閉会
 場所 光明寺（東京都江東区千田9-7）
 もしくはZoomでのオンライン
 TEL 03-3644-3043
 FAX 03-3644-3075
 メール koumyouji@koumyouji-fukagawa.or.jp

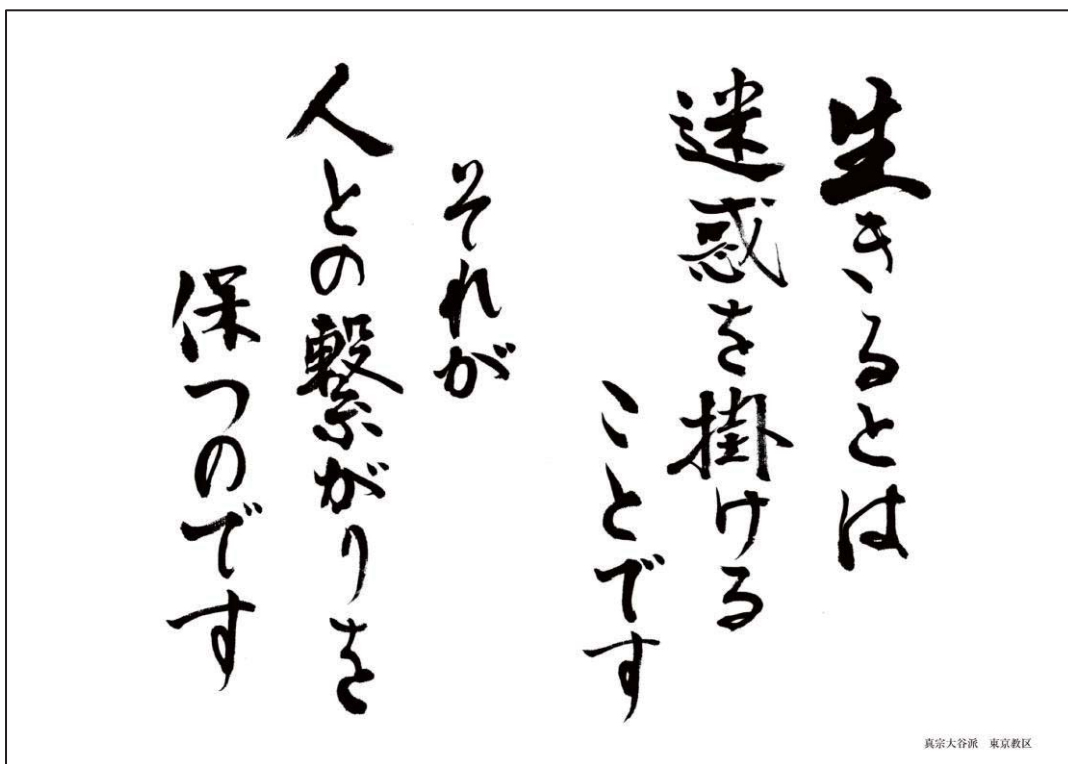
***参加希望の場合、人数制限がございますので光明寺にお問い合わせをお願いいたします。**

光明寺のホームページに過去の終活セミナーの詳細や次回セミナーの情報が掲載してあります。左のQRコードよりぜひ御覧ください。



光明寺 ホームページ

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

「慶讚法要・慶讚テーマ」のポスターが

東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」から

ダウンロードできます!!

真宗大谷派（京都・東本願寺）

2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讚法要

テーマ

『南無阿弥陀仏』

人と生まれたことの意味を

たずねていこう

法要期間

- 〔第一期法要〕2023年3月25日～4月8日
- 〔讃仰期間〕2023年4月9日～4月14日
- 〔第二期法要〕2023年4月15日～4月29日



↑テーマの趣旨・願いについてはこちらをご覧ください。

The 850th Celebration of Shinran Shōnin's Birth and the 800th Anniversary of the Establishment of Jōdo Shinshū

Theme

**Namu Amida Butsu
To Discover the Meaning of Being
Born as Human Beings**

東京教区で作成しました「慶讚法要・慶讚テーマ」のポスターが東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」からダウンロードできます。ダウンロードしていただければ、ご寺院、ご自宅のプリンターでお好みのサイズに印刷できます。縦長サイズですので、掲示板のちよっとしたスペースに掲示いただくなど、ぜひご活用ください。

教区教化通信 同朋の会推進部門

真宗入門講座（推進員前期教習）

同朋の会推進部門委員 伊藤 大信（横浜組 西教寺）

去る3月1日・2日・14日、真宗会館を会場に12名参加のもと、「真宗入門講座（推進員前期教習）」が開催された。講師に武田定光先生（東京6組因速寺住職）をお招きし、「私から始まる〈真・宗〉」の講題のもと、お話をいただいた。

武田先生は、「真宗入門」ということを、「私から始まる〈真・宗〉」といただき直されたと言う。そして「皆さんはどこから〈真・宗〉が始まったとお考えですか？」と受講者やスタッフに問いかけ、それは、親鸞聖人とも親鸞聖人のいたただかれた法然上人とも言えようが、結論「私以外から〈真・宗〉は始まらない」と語られた。つづけて「どこに〈真・宗〉があるかと言えば、自分にある。だから〈真・宗〉は自分から始まる。自分が生きなければ〈真・宗〉はどこにもない。自分がいたただかなければ〈真・宗〉はどこにもない」とおっしゃった。

また、お作りいただいたレジュメより一つ

紹介したい。「親鸞の問いは何だったのか？」について、それは「ほんとう」ということは何か？という問いだった」と示された。私たちが生きていくときの生活基準として、快・不快、善・悪、損・得があるが、〈真・宗〉においては、真・偽、つまり本当かどうかの問題で、親鸞聖人もそれに揺さぶられ、とりつかれたのである。

コロナ禍以前の本講座は2泊3日での開催。寝食を共にした濃密な日程が組まれていたが、多人数での宿泊と食事を回避するため、やむなく日帰りを3日間。だが、それでは遠方の受講者は通うだけでも大変であるということから、次善策として1日目・2日目をつなげて、自身での手配で東京の宿へ泊まれるようにとの配慮もなされた。限られた時間に、講義・座談・声明練習・お内仏お給仕概説・真宗同朋会運動概説とすべて盛り込まれた。

昨今のスタンダードである、オンライン開

催やハイブリッド開催ではなく、完全な対面形式での開催も特筆すべきことで、受講者お一人おひとりやスタッフ・会館職員の心がけで大過なく終わることができた。



講義の様子（武田定光氏）



班別座談の様子

教区教化通信 研修部門

聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師：一楽 真 氏（大谷大学学長）

善導独明仏正意 矜哀定散与逆悪
 光明名号顕因縁 開入本願大智海
 行者正受金剛心 慶喜一念相應後
 与韋提等獲三忍 即証法性之常樂

(書き下し文)

善導独り、仏の正意を明かせり。
 定散と逆悪とを矜哀して、

光明名号、因縁を顕す。

本願の大智海に開入すれば、

行者、正しく金剛心を受けしめ、

慶喜の一念相應して後、

韋提と等しく三忍を獲、

すなわち法性の常樂を証せしむ、といえり。

本日は「善導独明仏正意」で、どんなお仕事が善導大師によってなされたのかということを確認めたくて、『玄義分』に展開されるお話を挙げさせていただきました。

結論的には、「凡夫入報」です。凡夫が報土に入るという、それまであり得ないことが誰の上にも起こると、善導大師は明確にして下さいました。それを『正信偈』では「善導独り、仏の正意を明かせり」の後で、「定散と逆悪とを矜哀して」とお示しくさせていただきます。

「矜哀」は、「おおきに」と左仮名が附いています。善人も悪人も、大きに哀れまれている。だから善人は置いておいてよいわけではないのです。先ほど「善人もたすけられないといけないのではないか。決して悪人限定ということではない」というご質問がありました。親鸞聖人は、「定散と逆悪とを矜哀して」と、少し加えれば、謗法・闡提というそれまで仏法によってたすかなくていくはずのない者

まで視野に入れておられるのです。『文類偈』では、

謗法闡提回皆往

(謗法・闡提回すればみな往く)

『真宗聖典』四一一頁

という言葉にまでなっています。その定散と逆悪とを矜哀して、誰もが一人残らずたすかる道として掲げて下さったのが、二句目の「光明名号、因縁を顕す」であります。

これは「光明名号の因縁」ではないのです。光明名号によって、どんな者も迷いを超えることが出来る因縁と、読めると思っています。具体的には往生の因縁です。それが光明名号に顕われていると読みたいのです。

人間の能力資質等は一切問わない。どこまでも光明と名号において成り立つ。それが、我々一切凡夫が迷いを超えていく因縁があると、顕して下さいなのです。

「光明名号、因縁を顕す」には、元の文章があります。「行巻」ご引用の『往生礼讚』の文です。

しかるに弥陀世尊、もと深重の誓願を發して、光明名号をもって十方を撰化したまう。ただ信心をして求念せしむれば、上一形を尽くし、下十声・一

声等に至るまで、仏願力をもって往生を得易し。

『真宗聖典』一七四頁

これは「正信偈」の根拠になっています。この前後を見ると、前頁には「往生礼讃」とあります。その直前までは『安樂集』の引用で、それに続いて、善導大師のものは『観経疏』ではなく、『往生礼讃』の文章が先に出ています。これが善導に聞く第一のことなのでしよう。

光明寺の和尚の云わく、また『文殊般若』に云うがごとし。「一行三昧を明かさんと欲う。ただ勧めて、独り空閑に処してもろもろの乱意を捨て、心を一仏に係けて、相貌を観ぜず、専ら名字を称すれば、すなわち念の中において、かの阿弥陀仏および一切仏等を見たてまつるを得」といえり。

『真宗聖典』一七三頁

「一行三昧」と、ただ一つのことを勧めているわけですが。これが阿弥陀仏を念じる、名号を称するところに、阿弥陀仏および一切の仏を見たてまつることを得る。このこと一つでよいと掲げていくわけです。

それに対して問答がいくつか繰り返されて

います。例えば「他の行もあるのにどうして名前を称えるのか」という問答です。

問うて曰わく、何がゆえぞ観を作さしめずして、直ちに専ら名字を称せしむるは、何の意かあるや。

(同前)

それに対しては、有名な言葉ですね。

答えて曰わく、いまし衆生障重くして、境は細なり、心は麁なり、識颺り、神飛びて、観成就しがたきに由りてなり。こをもつて、大聖悲憐して、直ちに勧めて専ら名字を称せしむ。正しく称名、易きに由るがゆえに、相續してすなわち生ずと。

(同前)

「境は細なり」。見るべき対象が「境」です。その対象が非常に細やかなのです。細やかであるのに、我々の眼は曇っている。ですから障りが重く、仏の境界を見ると言われても、見れないのです。仏の世界を見なさいと勧めずに、名前を称えなさいと言うのは、我々の側に「心は麁なり、識颺り、神飛びて、観成就しがたきに由りてなり」という問題があるからです。

そして「ここをもつて、大聖悲憐して、直ちに勧めて専ら名字を称せしむ」と、称名の功德が言われます。発音した音とか回数とか、

ましてや声の質、発音の綺麗さという話ではないのです。念仏の話になると「声の大きさはどれくらいがいいのですか。発音はナムンダブでもいいのですか。やつぱりナムアマダブツが正しいのですか」というご質問をいただきます。ですが、名前を称えることは、仏の世界との出遇いなのです。名前を称えるところに仏が現れて下さるのです。

法然上人は日課六万遍、晩年には七万遍になったと言われています。これは、七万という回数を当てにしたわけではありません。称え続けないと仏の世界から離れていく愚か者であると知っておられたのです。称えないと仏の世界を忘れ、好きか嫌い、損か得かという世間の価値観に、あつという間に飲み込まれてしまうのです。ですから、法然上人は、自分は愚か者であるから称え続けなさいといかないとおっしゃったのです。

(文責 研修部門)

今後の聖典学習会の日程

2022年

6月17日(金) 13時～17時

※お申込み・お問い合わせについては、

東京教務所(担当:渡邊楽)まで

教区教化通信 広報出版部門

初参り式リーフレット

出版班チーフ 伊東良宣（東京5組 神足寺）

この度、広報出版部門では、「初参り式」のリーフレット並びに手引きを発行いたしました。

出版班では、以前より寺院で活用できる儀式的テーマのリーフレットを作成できないか検討してまいりました。そこで、2023年に『宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要』の勝縁を迎えるにあたり、掲げられた慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」、並びに、重点教化施策である「青少年教化」、「寺院活性化」、「真宗仏事の回復」に資する内容として、「初参り式」をテーマに作成しようという運びとなりました。

一般的に子どもを授かりますと、「お宮参り」に行き、健やかな成長を願うのは私たちの心情であります。「初参り式」は、その心情に寄り添いながら、新しく生まれた（いのち）とともに「南無阿弥陀仏 人と生まれたこと

の意味をたずねていこう」という慶讃テーマが呼びかける内実に出遇う貴重な仏縁でもあります。

今後は『人生の節目にお寺がある』という主題のもと、「成人式」「結婚式」「帰敬式」といった人生の節目にお寺にお参りいただく呼びかけとしてシリーズ化していくことも検討しております。

様々な人生の節目を（いのち）の節目として、南無阿弥陀仏の教えに出遇う大切な機縁としていただくことを願い、リーフレット並びに手引きをご活用いただき、多くのご門徒の方々とともに聞法の道を歩まれる機会にしていただきたいと思います。

初参り式を実施されます際は、ぜひ東京教務所（担当：佐々木・大橋）までご連絡いただければ幸いです。



【リーフレット】



【手引き】

リーフレット、手引きは東京教区HP「暮らしにじいん」からダウンロードできます。ぜひ、ご利用ください。

教区教化通信 「同和」協議会

第3回部落問題基礎講座

テーマ…水平社創立の理念と本願寺教団

講師…朝治武氏（大阪人権博物館館長）

「同和」協議会 常任委員

大滝 信明（埼玉組 大聖寺）

第3回部落問題基礎講座として朝治武先生にお話をいただいた。先生は、部落差別問題をきっかけとして、在日朝鮮人、障がい者、アイヌの差別問題にも取り組んでいらつしやり、幅広い知識と経験を活かし、大阪人権博物館館長をなさっている。

差別問題はそれぞれが一つの問題ではなく、全ての差別が関係しているとお話しいただいた。アイヌの方から「部落差別がなくなったら、その部落はどうなるのか？」と問われた時の事。差別とともに部落をなくす、部落の歴史や皮革産業などの優れた伝統まで消し去る。それは目指している方向ではないと、アイヌの方とのご縁の中で気付かされたそうだ。

教育、経済力、健康面が充分でない場合にも差別対象となる事がある。差別は連鎖するものであり、部落民の中でも、「あんなのがいるから部落が差別される」という人もいるとのことである。言葉に優しさを感じ、言葉に傷つけられる。何気ない一言でも、相手にとっては傷つく言葉かもしれないということを忘れては、視野を広く持ち、自己点検を継続する事が大切である。差別問題は「終わりのない永続革命」という先生のお言葉が強く印象に残っている。

今年水平社創立100周年を迎え、テレビや新聞でも取り上げられているところである。大切なことは、宣言のみに注目するのではなく、綱領、則、決議まで学ばなければならない。水平社について教師修練等では学んできたが、年月が経ち日々の生活の中で、恥

ずかしながら記憶が抜けてきてしまっている所であり、この大きな節目の年に改めて水平社創立について学ばせていただくことは大変ありがたいことである。今後も知識としてだけでなく、我々一人ひとりが問題意識をもって、学びを深めていかなければならないと思っ



web会議ツール
Zoom 用

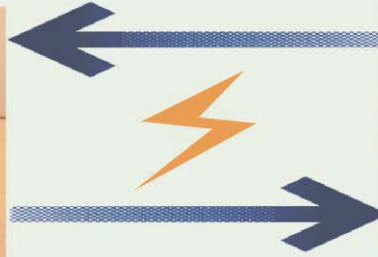
オンライン マニュアル

主催者編
&
参加者編

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンライン法座を検討されている方々への一助となるよう、東京教区では web 会議ツール「Zoom」用のオンラインマニュアルを作成しました。

ダウンロードしての印刷・配布はもちろん、独自に文字等を変更することも可能です。

どうぞ下記、東京教区ホームページよりダウンロードしてご活用ください。



真宗大谷派東京教区ホームページ（暮らしにじいん）
<http://www.ji-n.net> にてダウンロードできます。

※web版は随時バージョンアップし、アップロードしていきます。

問い合わせ先 東京教務所（佐々木・渡邊 楽）

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか?

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

じいーん散歩 **New**
しんらんさまめぐり
法話/行事・講座
なるほど仏事作法
寺院検索
他

じいーんのお寺も載っています!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/立野まで)

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記



駐在からひとこと

最近読んだ本：『ジョン・ウォータースの
地獄のアメリカ横断ヒッチハイク』
ジョン・ウォータース著（2022年1月）

東京教区駐在教導

渡邊 誉

「人間はみんなニセモノです」
あるラジオ番組のゲストに音楽家・石橋英子が出演し、自室の本棚にある書籍を紹介していた。石橋英子は、現在、電子音楽の制作、舞台や映画や展覧会などの音楽制作、シンガー・ソングライターとしても活躍している。彼女が「人生に影響を与えた一節」として冒頭にあげた言葉とともに紹介していたのが深沢七郎（1914-1987 山梨県石和町生れ）著『人間滅亡的人生案内』（1971）の一冊だ。深沢七郎といえは、姨捨山をテーマにした『檜山節考』で、ギターの弾き語りなどをしながら放浪する傍ら小説等を書く生活をし、1968年に重度の心臓発作がもとで亡くなるまでの19年間、闘病生活を送っていた。亡くなるまでは若者と農場

を開き、農業に従事していたという。さて、本の内容は高度経済成長期当時の若者からの実存的な悩みに深沢が答えるという形式で「本物になるには大学へ入り教養を身につけ社会に出て、人間を知らねばだめでしょうか」という問いに「あなたの言う本物とは何でしょう。人間には本物なんかありません。みんなニセモノです。」と答え、最後には「心配なく現在のままでのんびりとして下さい」と答えている。この言葉に深くうなずいた石橋は「自分を認めてほしいということから解放され毎日ダラダラとした生活の中でも、^{いや}ダラダラとした生活だからこそ大事であると思う言葉に出会えた」と語っていた。逆説的だがラジオを聞いていた私にも残る言葉であった。

はい！こちら真宗会館です



東京教務所 書記
大橋 百花

担当：願事事務関係
写真：チームNW9 担当職員3人です（笑）
卒業式風フォトになってしまいました

3月中旬の頃、住民票が実家にある私は、免許の更新（ゴールドの仲間入り）のため、自坊のある岐阜県養老町に帰省しました。

そして愛犬の柴犬 林（りん）と散歩をすることが帰省したときの楽しみのひとつです（林覚寺の看板犬のはず…）。思い返すと、私の11歳の誕生日に家族になり、かれこれ14年一緒に歳を重ねてきました。

足が速く、追いつくのに必死だった頃は、散歩コースの田んぼ道の足元など見向きもしなかったのですが、最近では歳をとりスピードがゆっくりになったせいか、今年はたくさんの「つくし」を発見しました。ちなみに皆さんはつくしを食べたことがありますか？今まで春になると家族が摘んできたつくしの袴を取る手伝いをして、爪が汚れるし面倒だったことを思い出しました。今年もちょうどつくしの時期で、食べる機会がありました。今まで実はあま

り好きではなかったのですが、卵としにしてもらい、久しぶりに食べると懐かしさも相まって、独特な苦味も、不思議と美味しく感じました。

誕生日に犬をプレゼントしてくれる約束をされていて、林がくる数カ月前に亡くなってしまった祖父が、つくしが大好きで、一緒に袋いっぱい摘み、自分で甘辛のつくしの佃煮をよく作っていたことも思い出しました。

また来年も元気な林とつくし探しができたらいいなあ…とふと感じながら、東京に戻っております。



人事異動



【退職】

金井 隆之

首都圏教化推進本部推進要員

森山 貴泰

首都圏教化推進本部法務員

阿部 司

首都圏教化推進本部法務員

(2022年3月31日付)

【離任】

大山 我聞

東京宗務出張所書記 ↓ 大阪教務所書記

【着任】

福嶋 晃基

首都圏教化推進本部推進要員

市野 潤

首都圏教化推進本部推進要員

西井 誠純

首都圏教化推進本部法務員

高橋 唯真

首都圏教化推進本部法務員

(2022年4月1日付)

次号にてご挨拶を掲載させていただきます。



敬 弔

高松 信英 様
たかまつ しんえい

長野 6組 善勝寺 前住職

二月二十八日命終 87歳

為郷 泰通 様
いさご やすみち

栃木組 光明寺 住職

三月一日命終 80歳

山名 廣隆 様
やまな ひろたか

東京 3組 宗善寺 住職

三月十六日命終 75歳

生前のご功勞を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

3月末届け出迄

涌

編集員の随筆



このNW9が皆さんのお手元に届けられるまでの編集には様々な作業がある。校正やレイアウトも大切だが、講師の法話やインタビューを読みやすいように編集することも重要な作業だ。法話のまとめやインタビュー記事においては、まず文字起こしという作業が必要となる場合が多い。講師や座談会の発言などを録音し、聞きながら文字に置き換えていく。「え〜」や「あの〜」などの不要な部分をカットしても、すべてを文字にすると膨大な量の文字数になる。

人によって作業スピードは違うが10分の音声文字起こしするのに30分から1時間がかかると言われていた。音声認識ソフトの精度が高くなってきたとはいえ、真宗の用語は専門的なことばが多く、やはり手作業にならざるを得ない。

そこからある程度の文章整理を行うが、基本的には話し手の言葉に編集側が手を入れる

ことは少ない。しかし口述による文章は言い換えや順序が前後したり、伝わりにくい点もあるため、ある程度は編集が入る。また紙面の頁数によっては取捨選択をせざるを得ないこともある。

そこで大きな問題となるのが、どの部分を取捨選択するのかである。同じ話を聞いていても、その人によって感じ方や響き方は千差万別であるからだ。編集会議において私が大切だと思ったことは、他の方には意識していなかったり、また逆に私がカットした部分を大事にすべきだと主張されることもある。最終的には話し手に確認していただくわけだが、まとめ方によってはかなり違う印象の文となってしまう。

私はどのように聞いたのかということ、より丁寧に、より真摯に向き合っていかなければと改めて思い知らされる作業でもある。

(東京4組 正應寺 佐々木誠信)